

# 營業之棧

1916年5月



營業之架

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

L67  
7

御祝儀が日出度御定り遊  
ばしたら先以て

山吉呉服店へ御問合せ下

さりませ

当店には嶄新流行の品と

澤山に準備して御座り外

から如何様にも御氣に召

す様御取揃申上ます



3919

謹告

謹啓時下春暖の候と相成候處各位愈々御清勝奉慶賀候  
扱て世界の平和に一度大波を起せる彼の歐洲戦乱も其の突發の  
當初に於ては數理上種々の説を立て、六ヶ月と云へ或は一ケ年  
の繼續は絶對に有り得べからず等稱へられ候へ共暇行く駒の足  
早み星霜最早三ケ年に渉る今日さへ未だに其の終局何れの日  
あるや豫想だも及ばざる次第にて候従つて之の戦争の影響頗る  
擴大せられ交戦國は言ふ迄もなく我が國に於ても藥品染料鉄類  
船舶其他の不足を告げ亞いで大暴騰を來し之が補充に困らみ  
政府は頻りに國産を奨励し外に向つては貿易を進め爲めに貿易  
年額實に空前の成績を擧げ昨年如きも數億の輸出に達し國富  
も亦た従つて増大せるは自明の事實にて所謂禍を轉して福とな  
すは今日の我國の事なる可くご存ぜられ候世界列強の中にて

最優秀の地位を占むるに到り従つて御同様今日の聖世に遇ふ者は須からく其責任の大なるを悟るご共に各々其の業に精勵一番する時と被存候 弊店各部共今より戦後に處する覺悟を以て一層業務に努力し勤めて遺憾無き様仕る可く候 就ては何卒幾重にも御引立の程奉懇願候先づは大正五年春の巻を發行に付き聊か御挨拶申述度如此御座候 敬白

## 畠 渡邊吉右衛門商店

振替東京二八七七番

吳服部 (電話川越三六六)

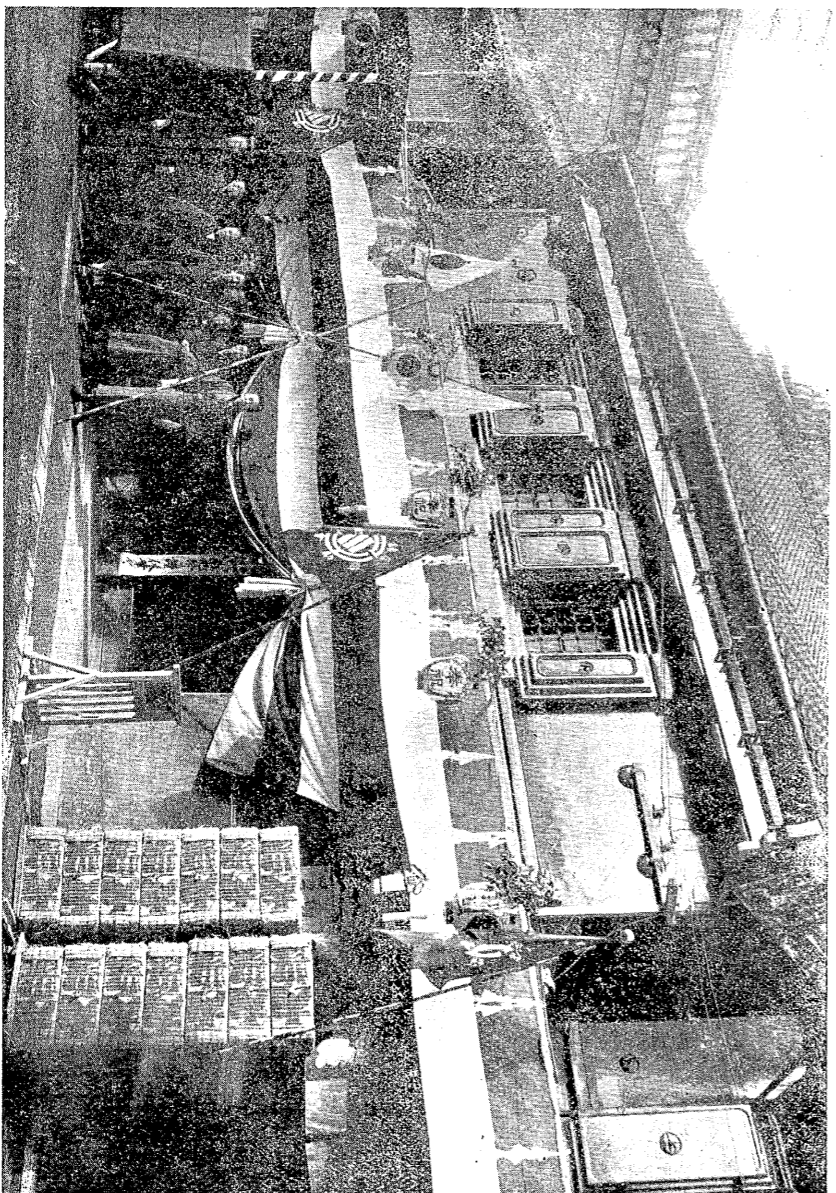
洋服部 (電話川越三六三)

卸部 (電話川越三六二)

## 畠 川越渡邊銀行

株式會社

振替東京二九〇四六番  
電話川越二四一番



部服吳店本邊渡





渡邊洋服部

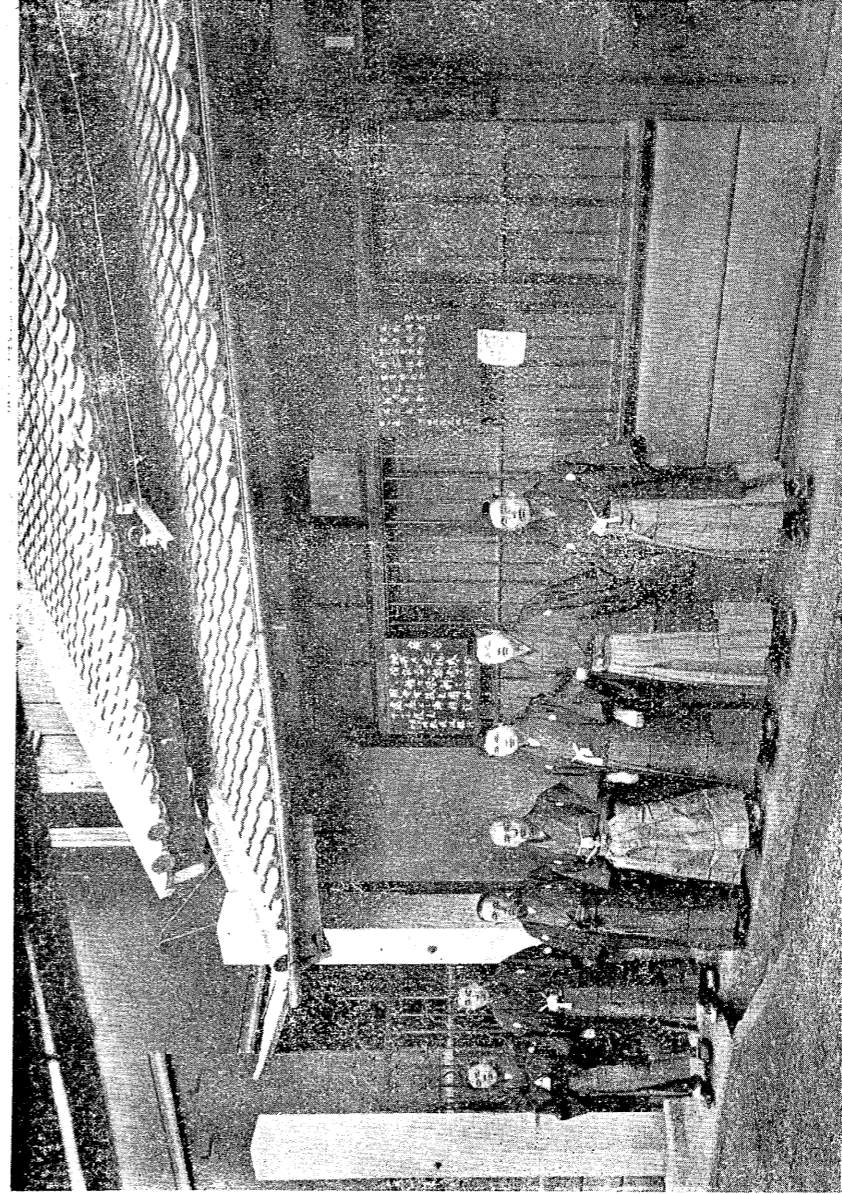


渡邊卸部

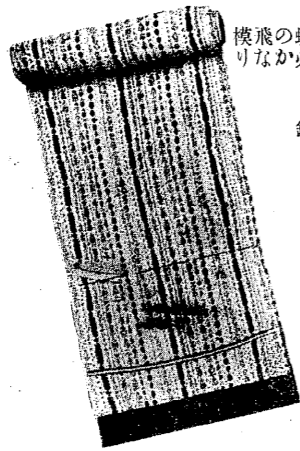
様模竹てに繪墨に地白袴地長額縮絹



錢拾參圓七拾價定



行銀邊渡越川

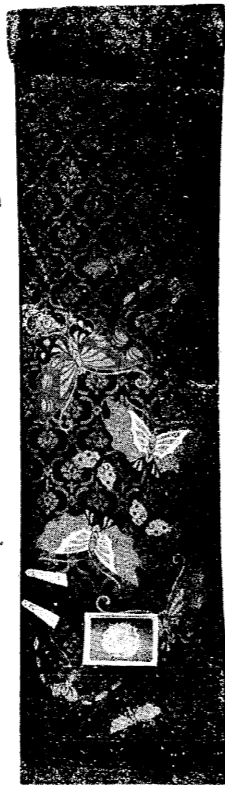


濃茶地に古更紗の地に蝶の飛模  
様向人婦の才五拾貳様

唐織九寸  
金拾圓五錢



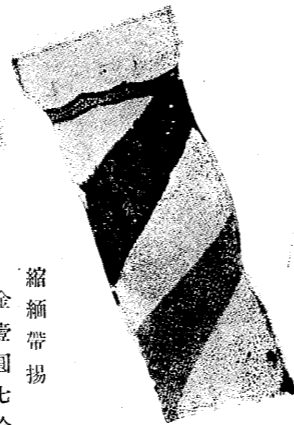
大織九寸  
金壹圓四拾五錢



太織九寸  
金壹圓四拾五錢  
メリンス代用として  
賣行飛ぶが如し



羽二重絞帶揚  
金貳圓四拾錢



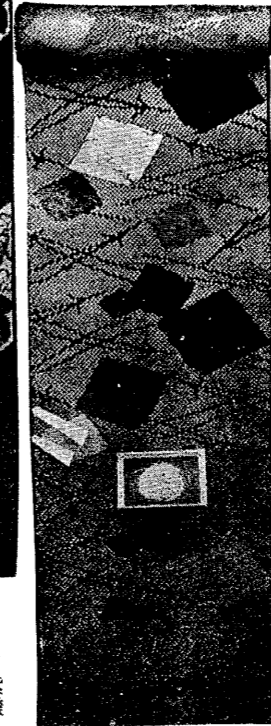
縮緬帶揚  
金壹圓七拾錢



唐織九寸  
定價拾七圓壹拾錢  
模様の才五拾貳向人婦  
織布地に茶水色の紙松葉

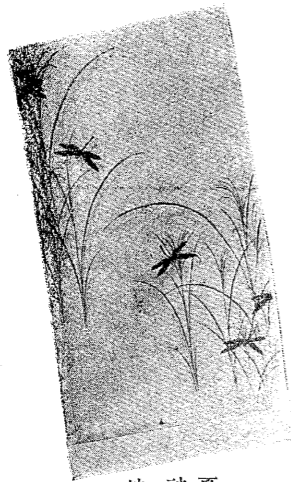


靜織九寸  
定價八圓貳拾錢  
模様の才拾貳位向  
黒地に銀糸に色々  
ツッて



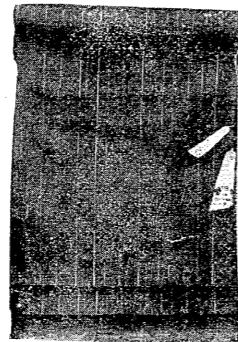
唐織九寸  
定價拾七圓壹拾錢  
模様の才拾貳後令嬢向  
紫紺地に桐樹の形横段模





地袖夏  
錢拾四圓貳金  
仙友重二羽呂立

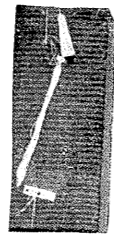
トーコーマンサ  
圓壹拾金  
縞棒の色ト藍白に地紺紫



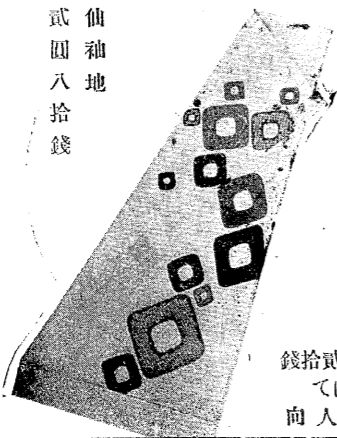
錢拾五圓貳拾金召御紗  
縞分一の鼠薄に地鼠濃



地袖夏  
錢拾四圓貳金  
仙友重二羽呂立



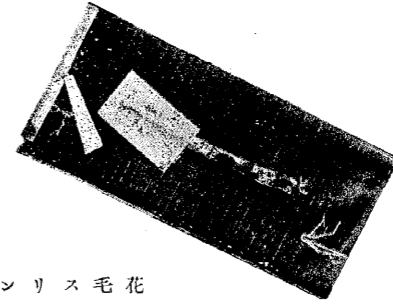
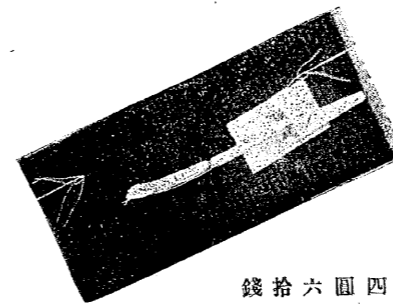
壁織友仙袖地  
金貳圓八拾錢



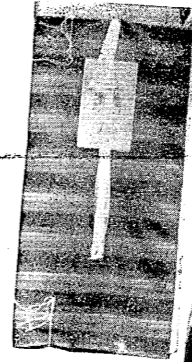
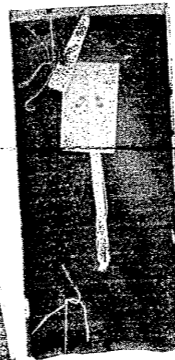
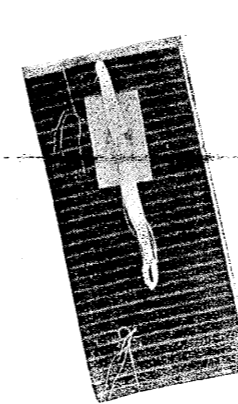
壁織友仙袖地  
金貳圓八拾錢



錢拾貳圓四拾金地折羽召御呂  
てに縞棒の鼠薄に地鼠  
向人婦の才五四拾貳



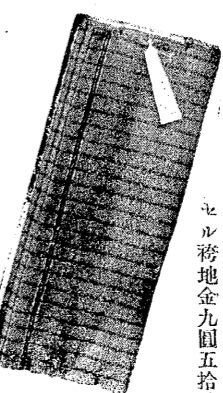
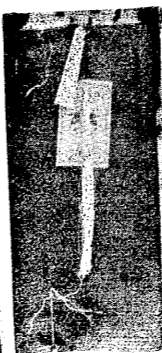
錢拾六圓四金ソリス毛花



(りあつれらせ迎歡に盛てし品節季)



セル袴地金九圓五拾錢

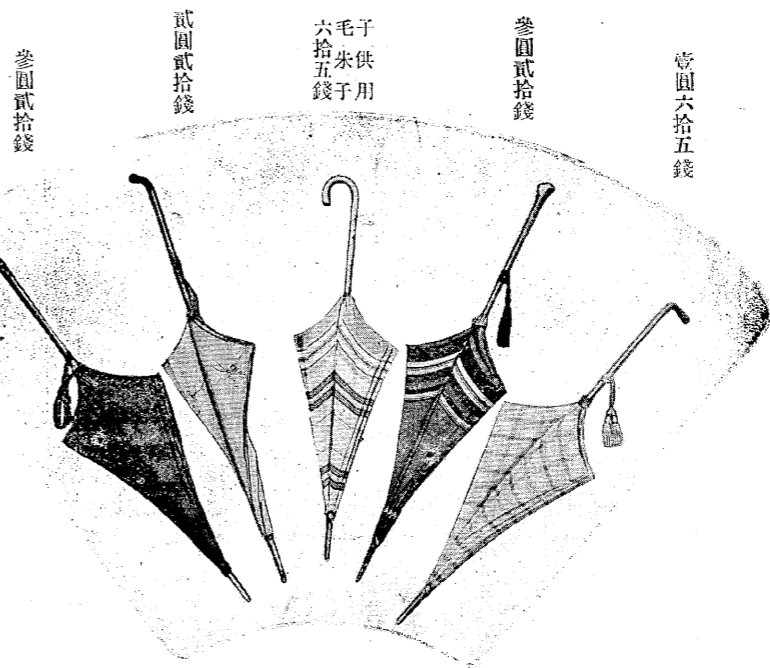


セル袴地金九圓五拾錢

# ● 店員募集

年齢十三四才位より十八才位迄身元  
 確實なるもの  
 但し都合により、呉服部、卸部、洋服部、等  
 何れに廻す哉も計り難く候間豫め御  
 了承を乞ふ

(傘洋持女絹斐甲)



壹圓六拾五錢

參圓貳拾錢

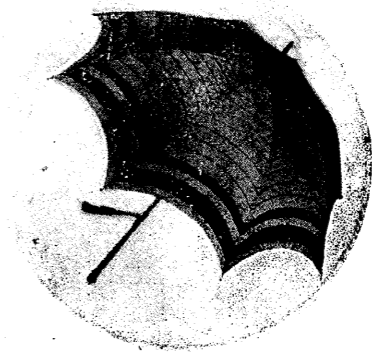
子供用  
毛糸子  
六拾五錢

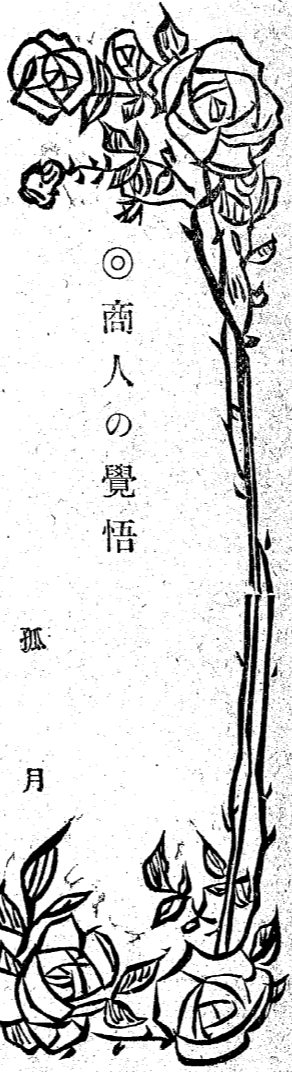
貳圓貳拾錢

參圓貳拾錢

參圓貳拾錢

參圓貳拾錢





◎商人の覺悟

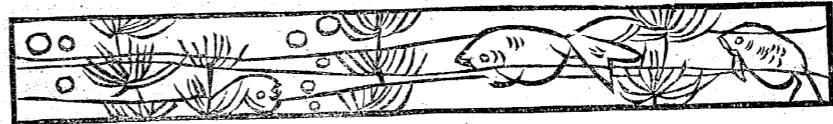
孤月

▲信用は商人の武器である。社會百般の何事でも信用は大切であるが殊に實業は信用がなくつては行はれないであらう。此の信用あつてこそ、商人は自由に活動することが出来るのである。「人を欺かず」「看板に偽りなし」と云ふ事は、實業家の守るべき大切な徳義である。信用すべき基礎があつて信用せらるゝので信用は幾度も試みられねばならぬ。幾度も試みられて而して信用せらるゝものであるに今日商人の中には、對手の身の上を斟酌して自己の言動を二三にするを意に介せざ

るものあり、對手の地位身分や服装や、或は言語態度によりて好い加減に調子を合せて其場限りの言動をなし、爲めに自ら矛盾衝突してゐるのを構はぬ人がある。「此の位の事は爲しても好からう」「此の位の事は知れぬであらふ」と幾分か心に疚しとすることも自ら辨護して、平氣で行ふて居る商人の盛衰が多いのは、畢竟右等の如く不誠實にして信用を失ふからであると思ふ。

英國倫敦の一商人が旅行中、汽車中で豫て知り合ひなる或る火災保險會社の支配人に會ひ





四方山の話は交へてゐる中、支配人が「時に貴下は近頃商店を御新築になりましたが未だ保険の契約がありませんでしたら私の會社と約束して頂きたい」

と告げ、商人も未だ契約をしてゐなかつたので、その旨を告げ、快く契約すべきことを約束して其日は分かれた、其後不幸にして商人の店は類焼して多大の損害を受けたが、意外にも以前に同乗した支配人の保險會社より保險金なりと何萬圓かの金を突然送られた。口頭で約束こそしたれ正式の契約を結んだのでなく、又掛金さへもしなかつたので、商人はこの巨額の金を受取るべき理由がないといつて固く辞退したが、會社側は「否口頭の約束にしる既に契約は成立したものである。第一一回の掛金は未だ御拂込にならなかつたから其分だけを差引きて計算して持参しました」と云ひ、強て受領を促した。受取れ、受取れ

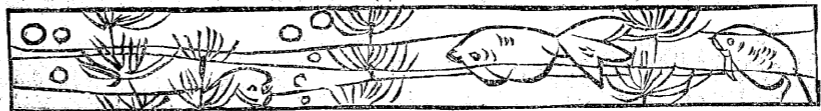
ぬと互に堅く相争ふたが、斯の如きことは他會社の先例ともなるべき事であると云ふので會社は裁判所に訴訟を提起し、彼の商人が保險金を受取る義務がある様に判決あらん事を求めた。而して裁判所は口頭なりとも一旦約束した以上、會社は保險金を支拂の義務あり、商人も亦従つて之を受取るべならぬと判決したと云ふ話がある。由來英人は非常に信用を重んずる人民である。信用と利害の衝突する場合は商取引中に少くない。眼前の利に迷ふ者は動もすれば前者を捨て、利害に走る。然るに英人は利を捨て、損を招いても信用を維持するに力めてゐる。利害は一時であり信用は永久である。利害は取返しがつかぬ信用は容易に快復する事が出来ぬ。前に述べた火災保險會社は一時利益を失ふたであらう、併し彼の得たる信用は契約者に安心を與へ、永遠に渉れる大なる利益を與へたであらう。



▲約束は厳守すべし。厳守されぬ約束は如何に有利なり共、最初より寧ろ之れを結ばざるにしかず、萬一何等かの事情に依て約束の時日迄に間に合はざるが如き場合には、事實を正直に打明けて延期を申込むのが當り前なるに種々なる口實を設けて對手を誤魔化さんとするが如きは事實卑怯なる行爲と言はざるべからず。聞く所に依れば五百年前の士は金を借りて若し期限に至り返済出来ざる時は人中に於てお笑ひ下さるべく候と金を借りた証文に書いた、金を借りて約束通り返さなかつたら人の中で笑つて貰ひたい、笑はれるといふ事は非常に恥づべき事だ、笑はれるのが厭やだから金を約束通り返す、今の人間は斯んな事で金を貸してもなか／＼返へさぬ、何年何月までには相違なく元利揃へて返す、若し返へさなければ保証人が引受ける、其れでも返さなければ、裁判に訴へても宜しいといふ

やうな事まで書くが、昔の士は笑はれまいとするから金を返へす、つまり武士に二言はない嘘言は決して吐かないと云ふ証據である。一諾の信を重んじて嘘言を吐かぬといふ爲に今まで固く守つて居た城を開け渡した人もある、其れは、杉原忠興といふ城主と、寄手の大將平賀武則といふ人である、是は守る方も強いが攻める方もなか／＼強いので長い間戦つて居て互に多くの家來を殺すばかりであるから二人で一騎討の勝負をしやう、私が負ければ大將が無くなるから、寄手は自然に引く其代りあなたが負ければ城を開け渡して貰いたいけれども唯大將同士が、一騎討をしやうと言つても一方が負けさうになると家來が黙つて見て居る筈はない、就てはあなたは承れば日本一の弓の名人であるといふ事だから私を一本の矢で射殺して貰ひたい、さうすれば此方は大將がなくなるから自然に引いて了ふ





其代り私を一矢で射殺すことが出来なかつた。此城を開け渡して貰ひたい、一方は日本無双の弓の名人であるが、一矢で射殺すことが出来なければ城を開け渡さなければならぬ、さうしても間違ひなく一矢で射殺さなければならぬと弓を満月の如く引き絞つて射た矢が見事に平賀武則の胸板に當つた。けれども此人が強情な人だからまだ死に申さぬと言つた、まだ死に申さぬ就ては約束だから城を開けて貰ひたい、成程一矢で射殺すことが出来なければ仕方がない、城を渡さなければならぬ、矢は身體へ通つて居るが死ななければ城を開け渡さない譯には行かない、たとへ今晚中に死んだにしても士が一旦一矢で射殺すと約束した以上は立麗に開け渡さなければならぬ、嘘言、詐を言つたとあつては未代までの恥であるからと云ふて其城を開け渡したと云ふ話がある。

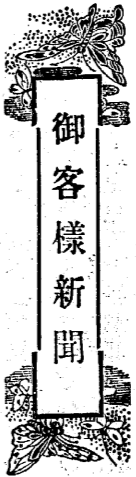
▲主従の關係を厚ふすべし  
商店の繁昌すると否とは用人其者の良否に依つて關係する處頗る大いのである、主人若くは家族の者が他人の前にて雇人を侮辱悪口を爲す等は甚だ見悪き限りなり斯の如き家庭にあつては其反對に雇人が蔭に回り主人の事を傍若無人に悪口なすは普通なりとす、かくて其商店は遂に世間の者より針小棒大に悪評を放たるゝに至るのである、噫嘆すべきかな。昔關ヶ原の戰爭に大谷刑部吉隆といふ人が敗けると極まつた戦さであるのに豊臣家の爲めに出掛けて行つて盡したのはどういふ譯であるかといふに秀吉公が大谷刑部吉隆を大變に可愛がつて居た、其一例として斯ふいふ話がある、其れは或時豊臣家で茶の湯の會を開いた、御承知の通り茶の湯といふものは呑み廻しする、茶碗を持つて半分呑んで次へ廻して呑むのであるが大谷刑部吉隆は癩病患者で



あるから顔がくづれかゝつて膿が流れて居るあの人は關ヶ原の戦ひの時は顔中繻帯をして居て眼だけを露して居たといふ位です、さういふ膿の流れて居るかつた位だから人が厭がる、其人の呑み廻しの茶の湯に出たのだから其の人の呑んだ後で呑む者は厄介だ。大谷刑部が呑んで次に渡す、之を受取つて呑む人は有難くない、仕方がないから次の人は呑んだ様な顔をして次に廻す、次の人も亦呑んだやうな顔をして次へ廻すから茶は少しも減らぬ大谷刑部の方では自分が斯ういふ病氣で居るのだから外の者は自分の呑んだ後で呑むのは定めし厭であらうと思つて初めつから口を付けない、實際茶は呑んで居らぬのだけれども外の者は皆厭やがつて呑む真似だけして呑んで居らぬ、其れを、秀吉公が見て居て、どうものみ口が悪いと思つてダツトそれをのみ乾して了つた、之を見て大谷刑部は外の者は皆

輕蔑してのまないのを大將自身で自分ののんだ後とでので下さつたといふのは實に有難い事である、此大將の爲めならば生命を棄つても宜しいと思つた、此の覺悟があるから後に關ヶ原の時になつて敗けると極つた戦ひに出て豊臣家の爲めに盡したのである人間といふものは何で動くがと言へば此の人情で動くのである人を思ひやる、主家來共に此心があつてこそ戰場で美しい働きが出来る。之れは昔の話なれども主従の關係はかくありたいものである。





御客様新聞

此の夏の流行

セルトネル

櫻の花が吹き散らした風は何時の間にか新緑に啼く風となつてなつかしい初夏が参りました又ネルやセルの軽くて肌觸りのよい着物が着られるので御座います今年セル地は相變らず鼠薄茶と云ふ處で御座ますと柄は大部分變つて参りました、あまり細かい平凡な柄はだん／＼流行から遅れて比較的荒い意氣な棒縞が喜ばれるので御座います。御召セルは最も上品で奥様令嬢向として此上もない品で御座います、いろ／＼と店に陳列して御座いますからセビ入らしつて下さいませ

浴衣地

浴衣地にはまだ少し早う御座いますが一寸今

流行新セル

歐洲の大戦が非常に長く續いて毛の原料のトツプと云ふものが輸入が少なくなつたので多少とも毛織物が上値になつて來ました、そこで、これに代用品として新セルと云ふものが出來ました色合や柄は皆本セル以上に具合よくできてをります、夏の御單や春先に御召しになる單羽織には値が手軽で柄が味いので非常に歡迎されます亦これが當今流行の縞セル袴になります袴に致すと安どんにして夏冬兼對に用ひられ

流行出來合夏インバ

三月となりまして軒に燕めが來るようになりますと冬の黒つんだインパネスでは重くなりそこで三月になりますと夏インバの白つんだのや薄茶、薄鼠づんだ扇裏のインパネスが流行て來ました弊店の洋服部には今年最流行のすぐに間に合う夏インバの手經に出來たもの

年の流行の傾向を申上げて置きませう何しろ浴衣地は夏の夜のそいろ歩きに一入と御婦人の美しさを増すもので御座いますから柄もなるべく派手なのが喜ばれます自然全體に模様を出したのはだん／＼歡迎せられずお若い方は誰方でも飛模様になつた荒い藍染を喜ばれます之も小店に今から陳列して御座いますから御覽下さいませ

夏帯

夏帯も大分新しい試みをした柄が出てまいりました派手な御浴衣にお締めになつて一層美しさを引立たせる黒一遍の淡白とした柄や澁い模様と薄色の帯地も澤山陳列して御座います又年本も六月より夜間は特に店中夜間陳列と云ふのをして色々新柄を陳列致しますから夜間の御遊歩方々皆様御連合せせひ／＼入らしつて下さいませ御買上げは兎に角せひ見だけ入らしつて下さい

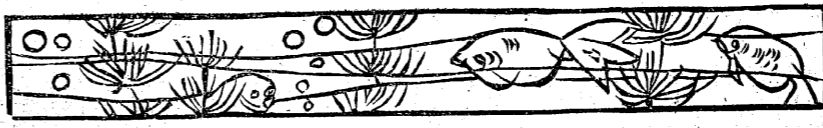
が陳列してあります御買上になるならぬは兎に角せひ御立寄を願升

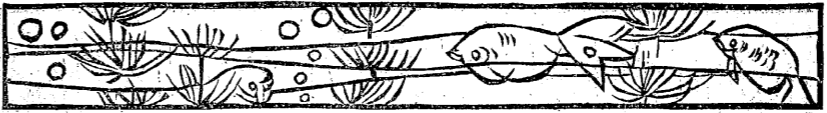
洗へば洗う程白くなるカラ

小店洋服部で特約店になつてをる東京潮谷商會のカラやシャヤは洗へば洗う程白くなり、論より証據すぐ試して御覽なさい實に最新流行の型がいろ／＼御座います潮谷のカラは帝都でも一番名がしられてをりますカラー一打以上御買上の方は一本まけて差上ります

賢明なる御客様に申上げます

私の店ではよい品ばかりを選んで仕入れ、正直な直段で賣つてをりますから御客様に安心して買つていただくことができます、決して御値切りになる世話は御座りません、又決して後から『悪い品を買つた』と後悔なさる事は御座りません





小僧の見た  
人生観



孤月

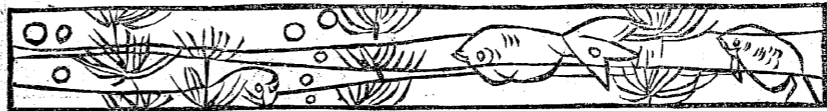
世の中の多くの人が、望む所のものは、何かと云へば先づ金でありませう。然らば人世最も尊いものは、金であるかと云ふに、金は成程、生活を維持するものであるから尊いには違ひない、然し其金より尊いものかあり、曰く生命！生命は實に何物よりも、より以上に尊いものであります。新聞などに能くあります。金の爲めにタツタ一つしかない生命を棄る者もあり或は苦うして、風寒き他境の地に流寓して、あらゆる辛酸悲痛のページを綴り行く者もありますが、然し短刀なり、拳銃なりを突きつけ、金を出すか、生命を渡すかと云へば、生命は要らぬから、金を残し

て呉れど、云ふ人は、十人が十人先づなからうと思ふ、如何に拜金宗でも、金より大切なものは生命である。即ち人間は此の大切な生命を棄る爲めに働くのでありませう。試みに一生懸命働らいて居る人に、お前は何故一生懸命働らくかと、云ふと働らかねば喰へないと云ふ、即ち労働せすば生活し能はずと云ふ。それでは何故お前は喰はなければならぬかと云へば、喰はなければ死んでしまふぢやないかと云ふ。最もな實に明白な答辨である。成程喰はなければ死んでしまふと云ふ事は仰せは尤もであるが、然らば物を喰いさへすれば、死ななくて済むか何うか。食はなければ死ぬ食へば死なゝいか。昔から死んだ人は食はずに死んだかと云ふにさうでない。我々は何んの爲めに飯を食つて居るかと云ふに生きて居たいから飯を食ふのである所が毎日生きて居る方が近くあるか、死ぬ方が近くなるか



と云ふに死ぬ方が近くなる。其れでは死にたくて食つて居る、さうではないが事實はさうである。サア解からなぬ。成程食はなければ死ぬ、食つても死ぬ、働らかないでも死ぬ、働らいても死ぬ、人世何の爲めに此の世の中に生活して居るか。是れはなかく、面倒な問題であるが、此處に生命より更に尊いものがある、其れは道である。道徳、即ち人の行くべき道である。所で食ふ爲めに働く、働いて生活して行く此の人世と云ふ奴が又なかなか面倒である。人生の見方には二つあつて、一つは世の中は詰らぬと見る人と、世の中を面白く見る人がある。詰らぬと見る方を厭世と云ひ、面白く見る方を樂天と云ふ。此の世の中は涙の種である。苦しい詰らぬものと云ふのと、イヤ世の中は何うにかなる面白い奴だと云ふのと二つある。通俗的に言ふと世の中に「渡る世間に鬼はない」と云ふ諺が

ある、是れは世の中を面白く見た人、此の諺は一面の眞理を持つて居る。夫から「人を見たら泥棒と思へ」と云ふ諺がある。是れにも眞理がある。が是れも見やうでさうにもなる或る時籠の鳥と竹の鳥と問答した、籠の鳥が云ふに「ライノ、竹の鳥さんお前はホントに仕合せものだ此の広い世界をどこまで飛んで往ても自由であろうが、私は此の籠の中へ引込んで飛ぶ羽も伸ばす事も出来ずホントに情けない、私から見ればお前さんは幸ひだ」と申しましたら竹の鳥云ふのに「イヤ、くそでない、私から見るとお前さんの方が余程幸ひだ、私は成程此の広い世界が自由に飛んで往來出来る筈だが中々さうでない、鷹に取られ、狩人に狙はれ、實に戦々競々、あつちを眺め、こつちを眺め一時も油断がならぬ、其れから見ると、お



前は安樂なものだ」  
 と云ふた話があります。すべて此の如く、同じく他人の物は善く見えて、自分のして居る仕事は詰らぬと言ふ。是れ皆心の持ちやう一つであります。我々は或る時は厭世論、或る時は樂天となる、大晦日になると厭世論、元日になると樂天論になる、酒を呑むと大に樂天であり、醒めると厭世論になつてしまふ。誠に世の中は妙なものであります。或る人がこれを栗の實に喩へまして申しますのに、此處に百の栗の實があつて、之れを食ふのに二つの食ひ方があります。一人は百の實の内、最も甘いの中から選んで食つて行く、先づ第一番に甘いのを一つ食ふ、後九十九残る、其の内から又一番甘いのを食ふ。今度は九十八残る其れからあとも皆一番甘い物くと食つて行くから、一番甘い物ばかり食つて不味い物はない、皆んな甘いしく食へる。所がモウ一

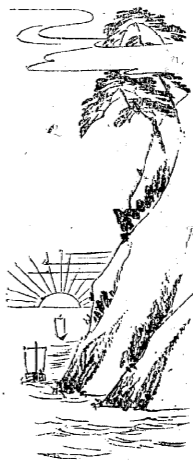
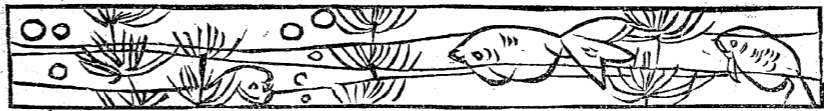
つの食ひ方は、其反對に、一番まづい物から食ふ、あともあとも皆まづいとう／＼しまひ迄甘いものを食はずしまつた。斯ふ考へて見ると同じ食ひ方でも、一方は不味い物ばかり食つて居るし一方は美味いものばかり食つて居る、一人のは不味い物ばかり食ふやうであるが、段々うまくなる云ふ希望がある。一人の美味いのは段々まづくなる云ふ失望がある。サアどちらが幸ひで、どちらが不幸であるか、我々は何れをとつてよいか。然し是れも見方でどうにもなる、厭世論だとか樂天論とか色々な議論はあるが、六ヶ敷い理屈は哲學者にお任せして、我々はもつと、平易に是を解決したいと思ひ忤。即ち何れもあまり極論に走つて居ると思ふ。たとへば茲に二人の異つた性質の者が居るとする、一人は朝から晩まで、一生懸命汗水たらして働いてをして得る處の金は、食ふものもろ／＼食はず



着る物も着ない様にして銀行へ預けて其金の増殖するのを、樂しみにして働いて居る、他の一人は働いて得た金は皆美味い物を食へ、美しい着物を着たりしてしまふ、さて此の二人の行ひは、どちらがよいでありませうか。年中不味いものばかり食へ汚い衣服を着て、金ばかり貯へるのがよいか、又奇麗な衣服を着て、美味い物許り食つて居るがよいかと云ふに、我々は其の何れにもあまりかたよる事を好まない、丁度前の栗の食へ方と同じで理屈は付け様で、何れにもつけければ、付くければ、其のものは中庸をどれと云ふ事があるから、何れにも極端に走る事を止めたがよいと思ふのであります

むやみに浪費して、一朝病氣や天災に遭遇したなら、すぐ他人の金を借りねばならん様な行ひは感心しない。爰に於てか此の兩人を折衷し、何れにも片寄らず、得た幾分はかならず確かな銀行へ貯蓄しわざと云ふ場合に困る事なく、そして日々の生活に見憎きみなりをせずに、社會の一員として相當の体面を保ちて、此の世の中を平穩に送る事が出来ると思ふ、之れは單に物質的方面の事のみであるが我々の行動は凡ての事柄に就てあまり極端に走らず中庸を選んで歩んだなら間違が少いと思ふ





◎ 流行夏服の準備

ついで此程冬服を新調したかと思ふてをる程に 關東の二月の空風もいつしか東風に變り四月 となれば櫻花も既に爛漫の時を過ぎて、なに 暖かい風に白き花辨がヒラ／＼と吹き落され て蝶も舞ひ鶯老いて春を何れにか問はんとす る暮春の季節この紳士の十坪ばかりの小庭に は既に初夏の氣が漂てをる嗚呼合服も新調せ ねばならぬ少し汗ばんだ冬服では暑くなつた 紳士は今更の如く驚いて洋服箆筒を明けて見 ると夏服も一昨年調つたと思ふせいか、ばか にスタイルや色合が時勢後れの如に見える年 々歳々、人相同じだが服装だけは是非新しく

したいものである。服装は人格の「エキスプレション」だとは毎度流行記者の言葉である 亦弊店の營業の榮りて云つてをる所である寒 はさして服装の悪いは目につかぬが春夏は特 に服装が悪るいと直に暑さが増す如くだ其服 装は人格の表現である。ソーダ。古い洋服を 着てをると心か古い如くいけぬ。一ツ渡邊へ 命して夏服でも新調させよーか、庭の若葉 の新樹の蔭に鶯が鳴いてをる障子を開けると 急に飛んで行つた庭の春日燈廊の上には雀が 二三匹ヒラ／＼と鳴いてをる暮春の氣は充分 この庭に漂てをる庭の八ツ手は青々と初夏に 咲く薊は赤い花を咲かせて思ひ／＼に春景色 を見せてをる嗚呼ソロ／＼暑くなるなあと考 へてをると、そこへ郵便が來た見ると渡邊の 營業の榮た之は、よい所へ來た、これから今 年の夏服の流行でもしらべて見ようかとヤラ ヲ紳士は食はへたシガーをすて、雑誌の帯紙



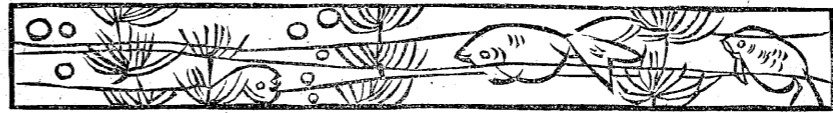
を破いた

デービー、サック、スーツ、(背廣服)

背廣にも色々あるが口繪寫眞に、あるものは 先づ第一に紳士の常用とするに足る、背廣の 本年流行タイプで幾多の亞米利加タイプから 其粹の抜いたものだ。型は前は三ツ釦で襟 巾。少々昨年のより峽めに(後ろで一吋四分 の一位に)襟明は昨年のもより少々廣く、 あいて隠袋は表に腰二個、で好みに因ては胸 に、一ツつけ、内側には兩方に一ツ宛て小さ く名刺隠袋を一個つける短衣は片前で五ツ釦 をつけ襟明は小さく上着の釦をかけて一ツ釦 の見えるようになし、洋袴は膝十八吋で口を 十六吋とし腰は普通よく是非三ツ釦が流行 である。地は縦縞大柄のホームズパンか、薄ラシ ヤが大流行で亦合服としては、紺セル(ブリ ユーセル)も中々流行で色は茶が本年の流行 の中心で鼠色の薄い物も、亦中々着ます、ハ

イカラと云ふと輕薄の如に聞えるが此服は嚴 密な正しい意味に於てのハイカラ服、で年と 共に向上發展して行く紳士方の事務服として 最も適當で最も新しい、スタイルである。 時勢の發達と共に發達するのは乗り物である 當地の青年活動家として、をそらく自動車、 自働車、はをろか飛行器、自働艇等あらゆる 最新の機械を應用しない者はあるまい是非以 上の者に乗る以上はソレ／＼此の用意が肝要 だ其必用にせまられて出來たのが即ち塵ヲケ 兼用の雨具であるこれを俗にレインコートと 云つてをる。型は自轉車用、自動車用、を通 じて背廣のスタンカラー、で前は五ツ釦でシ ョクとし、總丈は、四十八吋及五十吋が、流 行で、胴廻りは、少し、ユルク調り、隠袋は 表兩側に二個の縦隠袋として雨蓋を付け、内 側には二個の見かいた隠袋を付ける、其を釦 にてとめ袖は極く細く活動的に調り袖先には





伸縮自由の爲にストラップをつける一体にユツクリと調るのを、此のヤーバの特長である。表は無論防水質の、クレバネットかゴム羅紗で色は、やはり流行の濃茶か茶褐色にかざられてをる。

次にエス、ビー、モーニング、モーニングはフロックとサックコート、その中間に用ひ半禮服であつて、總てが禮を重んずる我國へは是非之を流行させたいものである。亦此服は總ての訪問、散歩などには最も適した服だサツクの如く軽く、所無くフロツクの重々しく窮屈の点もない此位洒落な又粹な簡便なものはあるまい殊に日本の如く未だ洋装に比較的厳しい規定のない國では此服を禮服として通せば通せられぬこともない。此点に於てモーニングは如何なる服にも立優つた特質を以てをる。口画に出した寫眞は之で前は二ツ釦の袴明きは大きく襟巾は後ろで(二時半)返りは、細く長くして、袖先は三ツ釦で袖を極く細く見せて、快活的に見せるのが、流行で、腰は圖の如く、少し細くしぼり

總丈は三十七時が流行で短衣は袴明きの大きな五ツ釦で、又袴向には折襟も少しは流行して来たツボンにサツクと同じで表地は縞の斜子セル、ホーラル、黒セル、が流行である。

次にサンマース、インバネス(夏インバ)西洋ではインバは禮服用の塵りよとして用ひる位のものである因て其丈も極短かく羽根丈などは、非常に寸法が異なり、先づ和服用としても冬物インバネスは當年等は無敵に羽根や總丈を長くした夏物インバネスには左程長くせず精々四十八時位が長く普通四十五時が極具合のよい所である襟は少し胸に引しまつた位が具合がよい胴腰廻りは普通で羽根は前にて極浅く立ち合ひ羽根丈は三十七時が流行肩は所謂丸形で釦は五ツだ隠袋は表に縦袋二ツ内側に二ヶ都合四ヶ附ける裏は白甲斐絹か鼠色甲斐絹半裏に附けて極品行のよい總へりを取りになる地質は霜降セル、霜降パークパン、薄絨類が流行してある又極薄地としては縞の上等アルバカ等も多く之に用いられる。

小巾縮緬之部

白濱縮緬	白丹後縮緬	白染下縮緬	白鶉縮緬	白縮緬染下地	小巾縮緬色物	白縮緬四丈物	錦紗縮緬貳丈物
上中並	上中並	上並	上並	上中並	上中並	上並	上並
拾七圓	拾七圓	拾六圓	拾七圓	拾七圓	拾七圓	拾七圓	拾七圓
圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓

夏模様之部

夏留三寸模様	全縮緬江戸襦	紹縮緬江戸襦	紹御召江戸襦	立縮御召江戸襦	紹縮緬友仙	江戶襦長地伴	小紋縮緬三丈物	全四丈物
上中並	上並	上並	上並	上並	上並	上並	上中並	上中並
拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓
圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓

形物之部

更紗縮緬	友仙縮緬	全玉糊赤地	紋羽二重友仙	羽二重友仙疋	八橋友仙疋	紹縮緬友仙反	紹友仙疋	紬友仙疋	太リ友仙疋	全更紗及小紋疋
上並	上中並	上並	上並	上中並	上中並	上並	上中並	上並	上並	上中並
拾七圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓
圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓

御召之部

御	御	御	呂御召(羽尺)	全	錦	高	縞	紋
召	無地物	着尺	尺	綾御	貴織	鹽瀬	紗御	紗御
上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並
拾八	拾八	拾八	拾八	拾八	拾八	拾八	拾八	拾八
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

帶之部

御召半コト地	紹御召江戸襷	紹朱珍丸帶	紹唐織全	變織丸帶	上糸錦綴	厚板綿入丸帶	全綿無シ	綿入丸帶
上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並
拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

外編御召には新名稱の基に最新奇抜なる柄種々之有り候

靜織丸帶	紗丸帶	黑朱子丸帶	黑朱子丸帶	厚板丸帶	糸錦丸帶	博多丸帶	京華丸帶	靜か丸帶	紗九寸織	雲井織
上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並
拾五圓	拾五圓	拾五圓	拾五圓	拾五圓	拾五圓	拾五圓	拾五圓	拾五圓	拾五圓	拾五圓
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

吳羽織 御影織 三美織 大典織 帝唐織 值段六七圓ヨリ拾圓迄ニテ流行トシテ歡迎セラレ居候

綿入御召九寸	御召九寸	色額七寸	立絹靜九寸	山吹織九寸	綿厚板九寸	縞九寸
上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並
參貳圓	參貳圓	參貳圓	參貳圓	參貳圓	參貳圓	參貳圓
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

黑朱子額付	瓦斯博多九寸	更紗九寸	博多尺三帶	山吹織尺三帶	變り織尺三帶	綿入朱珍尺三帶	瓦斯朱子尺三帶	白朱珍丸帶	白綸子丸帶	瓦斯之部
上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並
壹圓四拾	壹圓拾	壹圓拾	壹圓拾	壹圓拾	壹圓拾	壹圓拾	壹圓拾	壹圓拾	壹圓拾	壹圓拾
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

博多之部 輕裝帶瓦斯織 全博多 羽二重類之部

博多之部	輕裝帶瓦斯織	全博多	羽二重類之部	白羽二重疋物	白鹽瀬疋物	白紋羽二重疋	全八丈物	白斜子疋物	白綸子四丈物
上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並
壹圓五拾	壹圓五拾	壹圓五拾	壹圓五拾	壹圓五拾	壹圓五拾	壹圓五拾	壹圓五拾	壹圓五拾	壹圓五拾
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓



伊七崎銘仙疋	縮緬中巾無双	琥珀織	全鹽瀬無双	大巾鹽瀬帛紗	全大巾	縮緬中巾	斜子熨斗目
上中並	上並	上並	上並	上中並	上並	上並	上並
拾八	四參	拾七	六五	四參	五貳	壹八	六五
五		五			圓	錢	圓
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
全	全	越	越	飯	全	蚊	全
緋	上	後	後	能	綿	緋	中
物	布	縮	袖	銘	入	及	柄
反	反	反	疋	仙	類	小	大
上並	上中並	上並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並
貳拾	貳拾八	拾七	拾拾	拾八	七六	拾九	拾八
圓	拾貳	圓	五參			參壹	五
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
迄	圓	迄	圓	圓	圓	圓	圓
錦	變	若	漣	紹	紹	伊	壁
華	リ	葉	紹	縮	縮	七	透
織	紹	御	羽	縮	縮	崎	透
上並	上並	上並	上並	上中並	上並	上並	上並
拾四	拾八	貳拾	拾七	拾拾	拾拾	拾拾	拾七
圓	圓	拾	七參	五		圓	貳
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
位	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

五

紺紋兵兒帶	新絹兵兒帶	太リ兵兒帶	全中巾	大巾二重紋	全中巾	縮緬兵兒帶	全中巾	兵縮兒大巾	白縮兒大巾	白朱珍
上並	上中並	上並	上並	上中並	上並	上並	上並	上中並	上中並	上並
貳拾	八六	壹八	貳壹	五參	五貳	拾五	五參	拾七	拾七	拾拾
拾五	拾拾	拾拾	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
錢	錢	錢	迄	圓	圓	迄	迄	圓	圓	圓
縮緬模し付	太リ無双男袖地	縮緬男物無双袖	多物	男物壁羽二重	紋紗袖地	紹縮緬袖地	縮緬友仙袖地	紹兵兒大巾	羽二重色物全	絹紋色物兵兒帶
上並	上並	上中並	上中並	上並	上並	上並	上並	拾圓	上並	上中並
四貳	貳壹	六四	參參	貳壹	五參	五貳	五貳	拾圓	貳圓	壹七
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	後	圓	拾拾
迄	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	後	拾	拾
迄	錢	錢	錢	迄	迄	迄	迄	後	錢	錢
大斜名子	納	紹	全	全	袖全	模縮	紋縮	黑斜子	無地縮緬	初着
熨斗	熨斗	白揚	八掛	口共	大名	縮友	縮初	初着	縮初着	初着
共紐	黒目	模樣	付	付	付	付	着	着	上中並	上中並
上中並	上並	上並	上並	上並	上並	上中並	上並	上並	上中並	上中並
拾九	拾七	五參	拾拾	拾拾	拾八	七六	貳圓	四參	五四	參
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	錢	圓	圓	圓

四

綿カシ女袴	仕立上リ	メリンヌ女袴	綾毛斯女袴	絹毛斯女袴	本カシミヤ女袴	全小供物	瓦斯平	糸入平	セル袴地	紹織平	無双平	塩瀬平
						上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並
						壹七圓拾	貳貳圓五拾	壹壹圓參拾	四貳圓五拾	貳拾圓拾	貳拾圓參	貳拾圓五
						也錢	錢圓錢	圓錢	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓

全單帶	瓦斯五寸	博多單帶	全紹五寸	全ゴ別織上	博多五寸	紋織五寸	風通五寸
上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並
壹四圓參拾	貳八圓拾	五參圓七	拾六圓	拾八圓	八五圓	拾六圓	拾四圓
錢	錢	圓	圓	圓	圓	圓	圓

白地大和緋	染紺緋	村山緋	瓦斯村山緋	全三丈三尺物	伊豫緋	久留米緋	薩摩緋
上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並
參貳圓五拾	壹壹圓五拾	壹壹圓五拾	貳貳圓七拾	貳貳圓五拾	貳貳圓五拾	貳貳圓五拾	貳貳圓五拾
圓	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

御召夏羽織地	紗呂全	立横紹全	鉄紹羽織地	縞紹羽織地	透谷羽織地	全綾紹羽折一枚分	白呂羽折一枚分	優雅紗
上並	上並	上並	上中並	上中並	上中並	上並	上中並	拾四五圓
拾七圓參	拾七圓參	拾七圓參	拾八圓五	拾七圓五	拾六圓五	拾八圓五	拾八圓五	
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	

フランセル反	綿入セル反	本セル反	クレブセル反	全變御召	全別上	新縮緬大中小柄	紹無双羽織地
上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並	上並
五圓八拾	六圓五拾	七圓壹	拾六圓	八圓	七圓	貳圓五拾	拾八圓
錢	錢	圓	圓	圓	圓	圓	圓

八王子平	全別上	博多平	本仙台平	本ネル大柄	紹セル袴地	縞染モスリン反	綿セル反	花毛斯反	本ネル反
上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並
八六圓	五圓	拾八圓	拾八圓	拾八圓	拾五圓	四圓	貳圓七拾	五圓	六圓
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

七

六

御召白緋	白染緋	琥珀糸入	瓦斯糸入	壁糸入	瓦斯高貴	本場綿結城	白地綿入御召	白瓦斯浴衣地	晒綿
上並	上中並	上中並	上中並	上並	上中並	上中並	上中並	上並	上中並
四圓	五圓	八圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓
拾五	拾五	拾八	拾六	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五
圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢
瓦斯上布	木綿中形	全變リ物	全別上工風物	ウヅラ織中形	全縞中形	地縞正紺	久留米縞	薩摩縞	
上並	上中並	上並	上中並	上並	上中並	上中並	上中並	上中並	
壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	
拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	
圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	
遠州縞	白結反物	白瓦斯縮	紺絞リ	全浴衣地	縮緬	縞	縮緬	ハンカチーフ	
上中並	上中並	上中並	上中並	上並	上中並	上中並	上中並	上中並	
壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	
拾八	拾八	拾八	拾八	拾八	拾八	拾八	拾八	拾八	
圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	

雜品之部

紋絹縮シゴキ	帶留	全丸くけ	羽織紐女物	全男物人絹製	全絹糸製	敷布	メリンス腰卷	メリンス風呂敷	メリンス帶揚	縮緬帶揚
上並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上並	上中並	上中並	上中並	上並
參圓	參圓	參圓	參圓	參圓	參圓	參圓	參圓	參圓	參圓	參圓
拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五
圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢	圓錢
繪絹各種	洋傘之部	甲斐無地	洋傘女物	全朱子目入	全縞柄物	全絹中縫模様付	男物甲斐絹洋傘	毛朱子男物洋傘	全小供物洋傘	
尺三	尺五	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	
直段畧ス	直段畧ス	直段畧ス	直段畧ス	直段畧ス	直段畧ス	直段畧ス	直段畧ス	直段畧ス	直段畧ス	
和糸太綿九寸巾	蚊帳之部	全五	全六	全七	全八	全十	全十	全十	全十	全十
尺九寸巾	蚊帳之部	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八
尺九寸巾	蚊帳之部	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八
尺九寸巾	蚊帳之部	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八
尺九寸巾	蚊帳之部	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八	尺八

川越電車及瀛車時刻表 △印、急行券入用

川越電車	上野行車	下り 大宮 瀛線	上野行車	上り 大宮 瀛線	大宮電車
五三〇	六二〇	六三三	五三三	六二七	六三〇
六〇〇	六三〇	八〇五	六〇〇	七二二	七〇〇
六三〇	六五七	九四五	六五〇	八三三	七三〇
七〇〇	七二三	一〇二三	七〇五	一〇三三	八〇〇
七三〇	七四六	一一一九	七五五	一一三五	八三〇
八〇〇	八〇五	△一二四二	八三〇	一二五九	九〇〇
八三〇	八三四	一二二五	九〇〇	二四四九	九三〇
九〇〇	九〇〇	三二二九	九〇六	四四四二	一〇〇〇
九三〇	九五九	五二二四	九三〇	六二二八	一〇三〇
一〇〇〇	一〇三三	六四四五	一〇二〇	七五四四	一一〇〇
一〇三〇	一一三六	七二八	△一一〇〇	一一三五	一一三〇
一一〇〇	一一五六	九〇四	一一二五		一二〇〇
一一三〇	一二〇三		一二二五		一二三〇
一二〇〇	一二四八		一二三〇		一二三〇
一二三〇	一二五二	下り 大宮 瀛線	一二三〇	上り 大宮 瀛線	一二三〇
一三〇〇	一二四八	六四二	三〇〇	六五五	一二〇〇
一二三〇	△三四〇	七三三	三四〇	七四三	一二三〇
一二〇〇	四四四	八五六	四二五	八五八	一二三〇
一二三〇	四四五	一〇〇四	四二五	九五六	一二三〇
一三〇〇	五一九	一一〇四	五二〇	一一五二	一四〇〇
一三三〇	五三三	一二二六	六〇〇	一二四六	一四三〇
一四〇〇	六二二	二二二	六二〇	三三八	一五〇〇
一四三〇	六四二	四〇一	六二〇	四二二	一五三〇
一五〇〇	七五七	四五八	七〇〇	五二六	一六〇〇
一五三〇	八四九	六二〇	七三〇	六三九	一六三〇
一六〇〇	九二二	八二五	八二〇	八四四	一七〇〇
一六七〇		一〇三三			一八二〇
一八〇〇					一九〇五

全 養老印裾ボカシ 六 八 拾 參 圓	七 十 拾 壹 圓 八 拾 錢	六 八 八 圓 八 拾 錢	七 十 拾 壹 圓 八 拾 錢	六 八 八 圓 八 拾 錢	全 萌 黃 縫 目 無 シ 松 綠 印	全 十 十 拾 參 圓 參 拾 錢	全 七 十 拾 圓 五 拾 錢	全 六 八 七 圓 八 拾 錢	本 濱 上 沖 風	全 十 九 圓 九 拾 錢	全 七 十 七 圓 九 拾 錢
							七				十
											拾六圓六拾錢

◀ 表間時車汽道鐵越川 ▶

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時
五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分

◀ 表間時車汽道鐵上東 ▶

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時
五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分	五十分

◀ 表間時着發車馬 ▶

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時	七時
三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分

車動自  
表間時着發

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時	八時
三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分	三十分

拜啓當銀行も御蔭を以て逐日發展を告げ候は偏に各位の御引立に依る事と奉感謝候尙將來金融上に付ては充分御便利に且つ可成簡易に御取扱申上候間何卒御用の節は御遠慮なく御用向被仰付度奉懇願候

川越志義町  
株式會社  
川越渡邊銀行

電話川越(二四一)番  
振替口座(東京二九〇四六番)  
電信號碼(ワキ)

◎創立及組織

一、當銀行は大正二年八月廿五日の創立にして組織は渡邊家一族を以て成りたる株式會社なり  
取締役は無限の責任を以て業務に従事す

◎方針

一、確實と敏捷を本領となし御取引手續等は可及的簡易に御便宜を計るを以て方針とす

◎營業種目

一、定期預金  
〔六ヶ月又は一年と一定の期限を定めて御預けになる預金に有之候へ共特に期限内御入金の際は相當の利子を付し御拂戻可致候也〕



一、當座預金

イ、金額の多少に拘はらず當座預金証書を發行致候  
ロ、當座勘定の御契約被成候へば日常御取引に御使用の資金を御預の上  
御引出又は支拂には小切手御使用相成る方法に候

一、特別當座預金

は出納尠き資金の御預け金にて一口金五圓以上何程にても通帳を以て御  
隨意に出入致す方法に有之候

一、貸出金

商品又は公債若くは確實なる株券或は不動産等を擔保として約束手形又  
は証書にて御用立致候

一、當座預金貸越

當座預金御取引にて御預け金の外一時御使用可相成輕便なる方法に有之  
候

一、手形割引

商賣御取引の代金として御受取りの手形を可成低歩に割引致候

一、代金取立

賣掛代金、配當金、其他總て集金を可成便宜に致す方法に候

一、爲替

目下の處左記の通り各地に取引銀行有之候間送金爲替、荷爲替等充分御  
便利に且つ迅速に御取扱申上候

一、証券保管

は所持の有價証券類を確實に保護御預り申上候

一、普通貯金

一、金壹錢以上何程にても御預り致候

一、普通貯金

一、毎月五日までの御預け金は全月分の利子を附け申候

一、普通貯金

一、滿三ヶ年一回も御引出しなき方へは特別の利子を附け申候

一、普通貯金

一、利息は毎年六月、十二月の兩度に計算し之れを元金に組入れ申候  
一、社寺、學校公共團體等の貯金に對しては特に御相談可致候

一、据置貯金

一、此貯金は豫め拂戻し期限を定め其期間内に受入れたる預金を期限滿  
了后拂戻しを爲す方法に有之候  
二、契約期限は一ヶ年以上五ヶ年末滿と定め候

◎諸預り金利息割合 (大正五年四月現行)

一定期預金	年利(六ヶ月以上)	四分五厘
一當座預金	百圓ニ付キ日歩	六厘
一特別當座預金	百圓ニ付キ日歩	一錢
一普通貯金	年利	五分四毛
一据置貯金	右普通貯金ノ利率ニ二厘四毛ヲ加算ス	

右の外銀行一般の業務は精々確實に營業致居候間何なり共御用命被仰付度尙

宅地、田畑等を抵當として金百圓以上何程に  
ても御用辨申上又利息の義は最も低歩とな  
し御取引手續も可成手輕に御取扱申上候間  
金高の多少に拘らず御相談被下度候

◎爲替取組先

東京市

東京府

神奈川県

静岡県

愛知県

滋賀県

岐阜県

三重県

京都府

福井県

石川県

富山県

名古屋 名古屋

岡崎 岡崎

近江 近江

多治見 多治見

名古屋 名古屋

八幡 八幡

四日市 四日市

宇治山田 宇治山田

大坂 大坂

京都 京都

福井 福井

鯖江 鯖江

三國 三國

七尾 七尾

富山 富山

第百銀行

通旅籠町支店

十五銀行

日本橋支店

川崎 川崎

銀 銀

中井 中井

銀 銀

村井 村井

銀 銀

五日市 五日市

銀 銀

五日市 五日市

銀行 銀行

茂木 茂木

銀行 銀行

左右田 左右田

銀 銀

同松ヶ枝町 同松ヶ枝町

支店 支店

同行 同行

壽町支店 壽町支店

同行 同行

長島町支店 長島町支店

同行 同行

御厨銀 御厨銀

銀行 銀行

沼津 沼津

銀行 銀行

西遠 西遠

東京

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

村井銀行大傳馬町支店

信濃銀行支店

左右田銀行支店

第十銀行支店

茂木銀行支店

河合銀行

青梅銀行

鹿沼銀行支店

左右田銀行神奈川支店

沼津銀行支店

平塚銀行

橫須賀商業銀行

同行茅ヶ崎支店

同行江尻支店

同行三島支店

御厨銀行御殿場支店

同行佐野支店

同行江尻支店

同行三島支店

同行江尻支店

同行三島支店

同行江尻支店

同行三島支店

同行江尻支店

同行三島支店

同行江尻支店

同行三島支店

同行江尻支店

同行三島支店

同行江尻支店



新 山 秋 青 岩 宮 福 栢

瀧〔長岡〕 形〔米澤〕 田〔秋田〕 森〔三戸〕 手盛岡 宮盛岡 仙宮古 仙宮古 石卷 石卷 古川 古川 福島 福島 藤田 藤田 平松 磐城 若松 喜多方 喜多方 栢木 栢木 小金井 小金井 宇都宮 宇都宮 足尾 足尾 寶積寺 寶積寺

長岡銀行 百二十五銀行 秋田銀行 第九十銀行支店 第九十銀行支店 東北實業銀行 東北實業銀行 同石卷支店 同石卷支店 同古川支店 同古川支店 同涌谷支店 同涌谷支店 岩代銀行 岩代銀行 同藤田支店 同藤田支店 磐城銀行 磐城銀行 會津銀行 會津銀行 同喜多方支店 同喜多方支店 栢木銀行 栢木銀行 同小金井支店 同小金井支店 宇都宮銀行 宇都宮銀行 同足尾支店 同足尾支店 寶積寺銀行 寶積寺銀行

橫手 沼宮内 沼宮内 吉岡 吉岡 中新田 中新田 岩出山 岩出山 二本松 二本松 郡山 郡山 須賀川 須賀川 石川 石川 鹿沼 鹿沼 今市 今市 佐野 佐野 益子 益子

秋田銀行支店 第九十銀行沼宮内支店 第九十銀行沼宮内支店 東北實業銀行吉岡支店 東北實業銀行吉岡支店 同行中新田支店 同行中新田支店 同行岩出山支店 同行岩出山支店 二本松銀行 二本松銀行 同行郡山支店 同行郡山支店 須賀川銀行 須賀川銀行 同行石川支店 同行石川支店 鹿沼銀行 鹿沼銀行 同行今市支店 同行今市支店 佐野銀行 佐野銀行 益子銀行 益子銀行

羣 長 山 千 茨

前橋 高崎 高崎 富岡 長野 長野 松本 松本 上諏訪 上諏訪 伊那 伊那 屋代 屋代 大町 大町 平野 平野 甲府 甲府 甲府 甲府 梨府 梨府 五明 五明 千葉 千葉 佐倉 佐倉 水戸 水戸 古河 古河

上毛物産銀行 高崎銀行 茂木銀行 茂木銀行 富岡銀行 富岡銀行 信濃銀行 信濃銀行 同松本支店 同松本支店 同伊那支店 同伊那支店 同屋代支店 同屋代支店 同大町支店 同大町支店 同平野支店 同平野支店 同甲府支店 同甲府支店 同梨府支店 同梨府支店 同五明支店 同五明支店 川崎銀行千葉支店 川崎銀行千葉支店 同行佐倉支店 同行佐倉支店 川崎銀行水戸支店 川崎銀行水戸支店 百二十銀行 百二十銀行

澁川 澁川 同伊勢崎 同伊勢崎 須賀坂 須賀坂 中野 中野 飯田 飯田 上田 上田 野田 野田 小諸 小諸 岩村田 岩村田 明穂 明穂 谷村 谷村 上野原 上野原 大月 大月 木更津 木更津 北條 北條 湊

澁川産業銀行 澁川産業銀行 伊勢崎銀行 伊勢崎銀行 同境支店 同境支店 信濃銀行須賀坂支店 信濃銀行須賀坂支店 同中野支店 同中野支店 同飯田支店 同飯田支店 同上田支店 同上田支店 志賀銀行 志賀銀行 同小諸支店 同小諸支店 同行岩村田支店 同行岩村田支店 市川銀行明穂支店 市川銀行明穂支店 谷村商業銀行 谷村商業銀行 同行上野原支店 同行上野原支店 同行大月支店 同行大月支店 木更津銀行 木更津銀行 安房銀行 安房銀行 湊商業銀行 湊商業銀行

埼

玉

川	豊	同	鴻	同	忍	越	粕	杉	岩	川	浦
越	岡	上	巢	上		ヶ	壁	戸	槻	口	和
同	黒	鴻	同	忍	同	同	同	同	同	同	中
行	須	巢	行	商	行	行	行	行	行	行	井
川	銀	銀	鴻	業	越	越	粕	杉	岩	川	銀
越	行	行	巢	銀	ヶ	ヶ	壁	戸	槻	口	行
支	行	支	支	行	支	支	支	支	支	支	浦
店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	和
											支
											店

皆	下	羽	深	秩	本	熊	飯	所	小
野	吉	生	谷	父	庄	谷	能	澤	川
	田								
同	武	羽	深	秩	本	熊	飯	所	比
行	毛	生	谷	父	庄	谷	能	澤	企
皆									
野	銀	銀	銀	銀	業	銀	銀	銀	銀
支	行	行	行	行	行	行	行	行	行
店	店	店	店	店	店	店	店	店	店



大正五年五月十日印刷  
大正五年五月十五日發行

非賣品

發行兼編輯人 渡邊吉右衛門  
埼玉縣入間郡川越町四百九拾番地

印刷人 青山博吉  
埼玉縣入間郡川越町千四百九拾番地

印刷所 青山印刷所  
埼玉縣入間郡川越町千四百九拾番地

川越鍛冶町

渡邊吉右衛門商店

吳服部

電話(二十六番)  
電信零號(マ夕)  
振替口座(二八七七番)

川越鍛冶町(本店ノ筋向)

渡邊吉右衛門商店

洋服部

電話(二六二番)  
電信零號(ワヨ)  
振替口座(二八七七番)

川越鍛冶町(本店ノ筋向)

渡邊吉右衛門商店

卸部

電話(二六二番)  
電信零號(ワ)  
振替口座(二八七七番)

川越志義町

株式會社

川越渡邊銀行

電話(二四一)  
振替口座(二四〇六番)  
電信零號(キ)

